



# 日進中だより

学ぶ生徒 誠実な生徒 鍛える生徒

令和6年 12月 24日  
第 10 号  
さいたま市立日進中学校  
TEL 048-663-1251  
FAX 048-663-0834

## 『 挑 』

校長 小熊 誠

透き通った空、真っ白な吐息、紅潮した頬、校庭の霜柱。日本の冬がやってきました。いよいよ令和6年も終わりが近づき、長かった80日間の2学期も今日で終了です。保護者・地域の皆様の温かい御支援のおかげで、この2学期も日進の生徒たちは、素晴らしい輝きを放ってくれました。14日には、県の吹奏楽アンサンブルコンテストが開催され、日進のクラリネット五重奏が1月25日(土)に山梨県で開催される西関東大会を決めました。素晴らしい、心を揺さぶる音色でした。全国への扉を開くことを心から願っています。各部の冬季大会も真っ盛りです。さらなる日進の活躍を楽しみにしてください。

さて、今年も、京都の清水寺の森清範貫主により「今年の漢字」が揮毫されました。「金」です。オリンピック・パラリンピックの日本人選手の活躍による光と、政治の裏金問題などの影の2つの意味を示しているそうです。他にも上位に「災」や「震」等の暗い話題を示す漢字が選ばれていました。来年こそ、日本中が、明るく、元気になることを示す漢字が選ばれることを、願っています。そんな中、私も例年通り「私の漢字」を決めました。一昨年「前」、昨年「進」、今年は、「挑」です。長かったコロナ禍を抜け出し、今までの当たり前を取り戻し、通常の日々を取り戻した日常は、まったく違う世界へと大きく、しかも急激に舵を切り出しました。生活様式、家族の在り方、働き方、価値観なども大きく変化した「新しい時代」の幕開けです。私たちの学校現場には、さらに加速度的に、新しい、しかも激しい波が打ち寄せてきました。チョーク1本と黒板で勝負していた授業、学校の中心でもあった部活動、紙で印刷して配布していた各種通知類、家庭との連絡の中心であった電話、生徒たちの日々の連絡帳等、今までの当たり前が姿を変え、消えようとしている別次元の「新しい学校」です。しかし、どんな時代になっても、どんな学校になっても、変わらないものがあります。それは、学校の主役は生徒たちであるということです。主役が主役らしく、学校の主権者として、「生徒の生徒による生徒のための学校」の実現を目指し、日進の挑戦は続いています。日進独自の「スマイル委員会」による、皆がもっと日進を大好きになり、日進を皆が居心地の良い場所にするための活動。日進を発信地としたAEDの普及活動。12月11日(水)に実施した日進小との合同心肺蘇生訓練の様子は、12月25日(水)18時から放送予定のNHK首都圏ニュースで紹介されます。部活動においても、日進独自の、保護者の皆様の絶大な協力による育成会を支えに、生徒・教職員、そして保護者・地域の皆様が一体となった活動により日進ならではの輝きを放ち、素晴らしい結果も残しています。また活躍の舞台も、学校運営協議会の皆様や地域の皆様の協力の基、大きく広がり、学校の主役から地域の主役へと、前へ、確実な一步を踏み出しています。日進は、「新しい時代」に「新しい学校」に真正面から挑み続けています。だから「挑」です。令和7年、日進の全力の「挑」が、どんな未来を切り拓いていくのか、どうぞ御期待ください。



保護者・地域の皆様。今年も、日進への御理解と御協力、そして温かい御支援、本当にありがとうございました。令和7年もよろしくお願いたします。少し早いですが、良いお年をお迎えください。

希望の登校 笑顔の活動 満足の下校